

# 彩の国地鶏タマシャモ 飼養管理マニュアル



埼玉県農業技術研究センター

令和4年3月

# 彩の国地鶏タマシャモ飼養管理マニュアル目次

- 1 はじめに
- 2 タマシャモ原種について
- 3 彩の国地鶏タマシャモ出荷までの流れ
- 4 地鶏タマシャモの飼養管理・出荷の基準
- 5 飼育方法
  - (1) 入雛から幼雛期の管理（～28日齢）
  - (2) 中雛期から出荷までの管理（28日齢～140日齢）
  - (3) 飼育施設の整備例
  - (4) ワクチン
  - (5) 飼料
  - (6) 出荷
  - (7) 参考（体重の推移、出荷時の部位別重量）
- 6 異状鶏の発見

## 1 はじめに

「タマシャモ」原種は、埼玉県養鶏試験場（現農業技術研究センター）が大シャモ、大和軍鶏、ニューハンプシャー種を素に、昭和59年に作出した大型の肉用専用種鶏です。平成元年より、同原種をロードアイランドレッドと交配し、「彩の国地鶏タマシャモ」（以下「地鶏タマシャモ」）として、農家への雛の配布を開始しました。

平成17年には、飼育農家、食肉取扱い業者、飲食店が一体となった「彩の国地鶏タマシャモ普及協議会」が発足し、会員相互の情報交換や、研修会の開催による飼養管理技術の向上を行っています。さらに、県内外の畜産、食肉関係の催し物などにも参加し「地鶏タマシャモ」の魅力をアピールしています。

さらに、平成27年から発育性向上のため、純系シャモを交配した改良を行い、令和3年より改良鶏雛の配布を開始しました。

本マニュアルでは、これから「地鶏タマシャモ」の飼育を始めようとする方などを対象に、飼養管理上の要点を示しています。

令和4年3月

## 2 タマシャモ原種について

昭和59年に埼玉県養鶏試験場（現農業技術研究センター）が、大和軍鶏、ニューハンプシャー、大シャモを交配させて作出した高品質肉用鶏です。



大和軍鶏



大シャモ



ニューハンプシャー

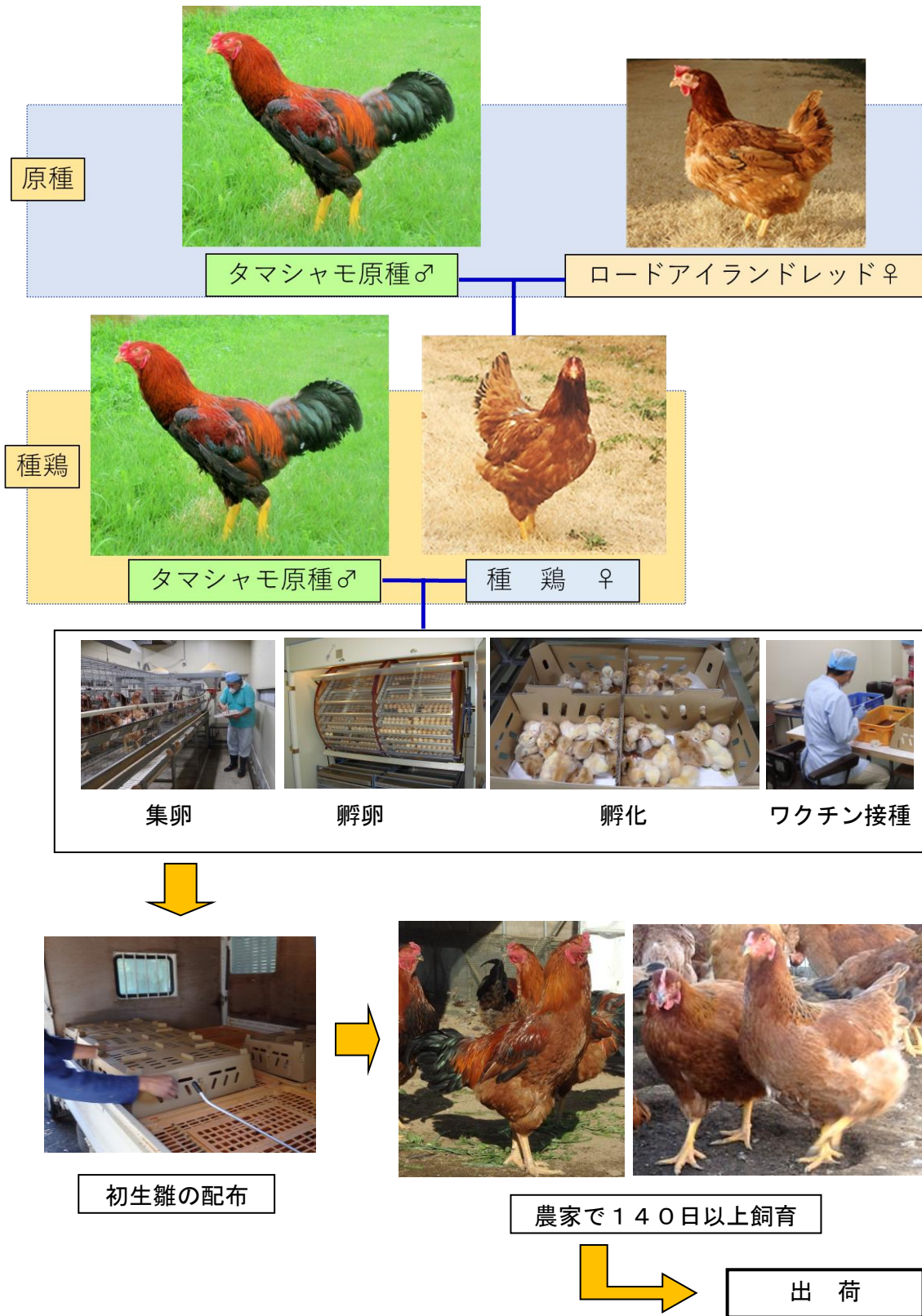


タマシャモ原種

平成27年から純系シャモを交配した改良を行い、令和2年に発育性が向上した改良原種が完成しました。

地鶏タマシャモの体型は140日齢でオス3.8kg、メス2.7kgで、ももの発育が良く、闘鶏用シャモにみられる攻撃性は抑えられています。

### 3 彩の国地鶏タマシャモ出荷までの流れ



#### 4 地鶏タマシャモの飼養管理・出荷の基準

	地鶏タマシャモ	地鶏肉の日本農林規格 (生産方法)
素びな	埼玉県農業技術研究センターで配布された地鶏タマシャモ雛※ ※地鶏肉の日本農林規格に適合	在来種由来の血液百分率50%以上で出生の証明ができるもの
飼育期間	孵化から140日間以上	孵化から75日間以上
飼育方法	28日齢以降平飼い	
飼育密度	28日齢以降10羽/m <sup>2</sup> 以下	
飼育場所	埼玉県内に限る	

## 5 飼育方法

### (1) 入雛から幼雛期の管理（～28日齢）

雛を飼育する方法は、専用の電気式育雛器（バッテリーブリーダー）のほか、自作の簡易な容器（飼育箱）を用いる方法がある。

飼育密度の目安	
21日齢まで	14cm四方

#### ア 電気式育雛器を利用した育雛方法

飼育の前には清掃消毒を行い、よく乾燥させる。数日前にはヒーターの電源を入れ、作動に異常がないか確認する。床面の温度が低いと雛の体が冷えて下痢を起こしやすくなり、以降の発育に大きな影響がでるため、入雛の際には、事前に十分な余裕をもってヒーターを入れ、床面を十分に暖めた状態で雛を入れる。



育雛器には飲水器が付属しているが、入雛直後は事故を防止するため、幼雛用飲水器を保温室の中に設置する。ヒーターの真下では飲水器の水が温まってしまうため、ヒーターか

ら少し離れた場所に設置する。  
幼雛用飲水器使用中は朝夕に  
水の交換を行う。

入雛直後は、保温温度や飲水  
の状況を確認するため、雛の様  
子を十分に確認する。群全体が  
概ね飲水できていることを確  
認後（給水開始から1時間程  
度）、給餌を行う。育雛器には  
餌のトレイが付属しているが、  
入雛直後は飲水器と同様に保  
温室の中に設置する。



飲水器



適切な環境下での雛の様子

保温室内の温度環境が適  
切である場合、雛は落ち着い  
ており、寝ている個体も多い。  
一方で、温度が低すぎる場合  
には、雛は1か所に固まり鳴

#### 温度管理の目安

1～3日齢	32～35℃
4～7日齢	30～32℃
8～14日齢	28～30℃
15～21日齢	26～28℃
22～28日齢	23～26℃
28日以降	加温なし

き続けており、暑すぎる場合には、開口呼吸をしている個体  
が確認されるほか、運動場に出ている個体が散見される。雛  
の状態をよく確認し、適切な温度管理を行う。



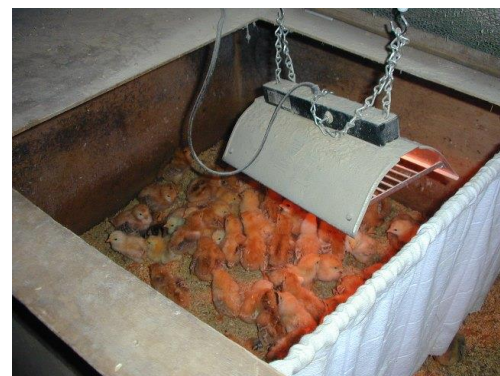
照明について、入雛後4日間は24時間点灯させ、その後は徐々に点灯時間を短くする。

点灯時間	
餌付け～4日目	24時間
4～21日目	16時間
22日目以降	自然採光

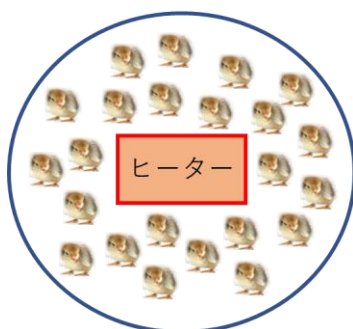
湿度について、育雛初期には強い熱源で加温するため器内の乾燥が進み、雛の水分が奪われ食滞や消化不良をきたし、活力不足や発育不良が生じる恐れがある。そのため、入雛から1週間程度は50～70%の湿度を保てるよう管理を行う。

## イ 飼育箱を利用した育雛方法

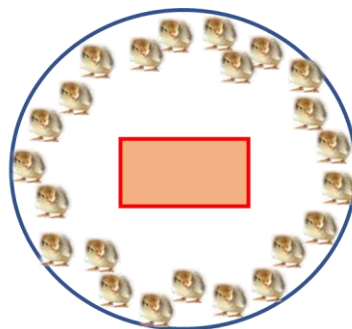
飼養羽数が100羽以下の場合、コンパネなどを用いた飼育箱で育雛することも可能である。底に敷料を敷き、頭上に赤外線ヒーター等の熱源を設置し、床面が適切な温度環境になるように高さを調節する。飼育箱は隙間風が入らないように接着し、特に冬場は周囲や上面を毛布などで覆うなど、保温に注意する。



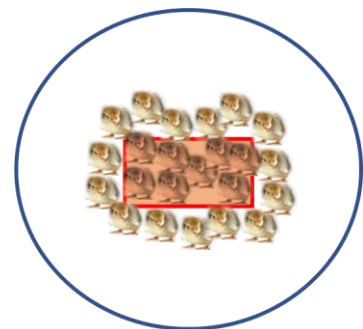
入雛直後の給餌は、群全体に少しでも早く餌付けを覚えさせることが重要であることから、最初は床に紙を敷き、その上に餌を撒く方法が有効である。



適温の状態  
雛は落ち着いている



暑すぎる状態  
雛は熱源から離れている  
開口呼吸



寒すぎる状態  
1か所に固まっている  
鳴き続ける

## (2) 中雛期から出荷までの管理（28日齢～140日齢）

### ア 飼育施設の整備

28日齢以降は、雛を育雛器等から肥育場に移動させ、以後、平飼いで飼育する。

広い肥育場に出した直後は、慣れない環境から、雛が隅に固まり、圧死等の事故が生じる可能性があることから、飼育エリアの隅を丸くする等の処置が有効である。また、肥育場では天候の影響を大きく受けるほか、弱い鶏を追い回す個体も確認される。損耗事故を軽減するため、屋根、日差し除け、止まり木の設置等、鶏のストレスを緩和させるための環境づくりが有効である。



圧死防止隅を丸く囲う



隙間風の防止  
下部 50 cm をシートで被う



通気性の調整  
ロールカーテンの活用



ストレスの緩和  
とまり木の設置

## イ 飼育密度

地鶏の定義（日本農林規格）では飼育密度10羽/m<sup>2</sup>であるが、タマシャモは体重が大きく、また飼育期間が長いため、12週齢以降は5羽/m<sup>2</sup>程度とするなど、標準より密度を低く飼育することが望ましい。

出荷日齢（140日齢）が近づいた鶏は性成熟が進むため、雄鶏は雌鶏を追いかけ、乗駕する行動が確認される。十分な逃避スペースがとれない場合、雌鶏の損耗が多くなるため、雌雄の区別が判り始める10～12週齢頃に雌雄別飼育を行う方法も有効である。

## ウ 給餌器

ホッパーや樋を用いる場合、飼養羽数の1/2が同時に採食できることを目安に、ホッパーの数や樋の長さを調整する。不断給餌（常時餌がある状態）となるよう、日齢に応じて給餌量や給餌回数を調整する。また、飼料が鶏の腹の高さになるよう、発育に応じて給餌器の高さを調整することで飼料の汚れやこぼすことによる無駄を削減することができる。

## エ 給水器

市販の給水器を用い鶏の肩の位置で飲めるように設置する。水の交換は1日1～2回を目安に行う。ニップル式の飲水器又は樋に常時水を流す方法は、衛生的であるほか、水交換の手間を省くことができる。屋外で飼育する場合は、冬季に水が凍結しないよう、対策が必要となる。

## オ 敷料

飼育前に十分な敷料を入れておくことで飼育期間中の除糞作業を省略することができる。

## カ 消毒

衛生管理施設の入り口には消毒槽の設置や石灰の散布を行い、飼育エリアでは、区画毎に専用の長靴を設置する。消毒液は有機物混入により効果が減弱するので、頻繁に交換する。汚れ落としと消毒の2槽用意すると良い。



### (3) 飼育施設の整備例

#### ア 放し飼い（露天での飼育）飼育



農場外観



雨風対策用のビニールハウス



放し飼いスペースの防鳥ネット



野生動物侵入防止用網の設置

## イ 簡易鶏舎を用いた平飼い飼育

### 例 1



鶏舎外観



鶏舎内部

### 例 2



鶏舎外観



鶏舎内部

### 例 3



鶏舎内部



中雛用鶏舎

## ウ 当センター内の簡易鶏舎図面等

簡易鶏舎			2016・9	供用開始	
面積	放牧場	6m × 9m		54 m <sup>2</sup>	
	ハウス	2.4m × 3.6m		8.64 m <sup>2</sup>	
	飼養羽数			50 羽	
費用	計			299,325 円	
内訳	ハウス	資材	1式	123,995	業者に組立委託
	放牧場	メッキ金網	15枚	68,040	1m × 2m @4, 200
		ネット	1	3,218	
		パイプ等		64,112	
	給水施設			39,960	ホース、蛇口等



鳥インフルエンザ予防や獣害対策のため、全面に防鳥ネットと地面から高さ1 mの範囲に野生動物侵入防護柵を設置。



#### (4) ワクチン

ワクチンプログラム（雛譲渡時に配布）に従い、確実な接種を行う。

##### ア 購入方法

ワクチンは獣医師の処方により購入し、獣医師の指示のもと確実な接種を行う。

##### イ 接種方法

ワクチンの種類により投与方法は異なるので、希釈方法等を含め、使用説明書の表示を確認する。

##### （ア）飲水投与

ワクチンを投与する約2時間前に給水を停止する。

羽数に合わせてワクチンの投与量を調整し、全羽数が確実に飲める量を飲水器に



入れ、全部飲み切ってから通常の水を与える。

水道水を用いる場合は塩素（カルキ）によりワクチン効果がなくなるため、前日までに汲み置きしておき、カルキ抜きした水を用いる。

## (イ) 翼膜穿刺

鶏痘ワクチンは翼膜穿刺により接種する。翼膜の血管が走行していない部位に貫通させる。専用の器具か滅菌した針を用いる。



ウ ワクチンプログラムに表示している推奨接種ワクチン

接種予定日	ワクチン	方法
配布時に当センターで接種	マレック病ワクチン IB(鶏伝染性気管支炎) ワクチン	皮下 点眼
14日齢	2種混合ワクチン ニューカッスル病ワクチン IB(鶏伝染性気管支炎) ワクチン	飲水
	FP(鶏痘) ワクチン	翼膜穿刺
21日齢	IBD(伝染性ファブリキウス嚢病)	飲水
28日齢、 56日齢	2種混合ワクチン ニューカッスル病ワクチン IB(鶏伝染性気管支炎) ワクチン	飲水

(5) 飼料

以下の表を参考に日齢に応じた飼料を給与する。

日 齢	配合飼料区分
0～28日齢	幼すう育成用配合飼料又は ブロイラー肥育前期用配合飼料
29～84日齢	中すう育成用配合飼料又は ブロイラー肥育後期用配合飼料
85日齢以降	大すう育成用配合飼料又は ブロイラー肥育後期（仕上げ）用配合飼料

抗菌性飼料添加物を添加した飼料は、食用に出荷する前7日間は給与してはならないため、120日齢頃までには休薬飼料（大すう育成用配合飼料又はブロイラー肥育後期（仕上げ）用配合飼料）に切り替えるよう、留意する。

## (6) 出荷

出荷の際の休薬期間を遵守するため、120日齢頃、給与飼料を休薬飼料に切り替える。

140日齢（出荷日齢）経過後、体重が大きい個体から順次出荷する。

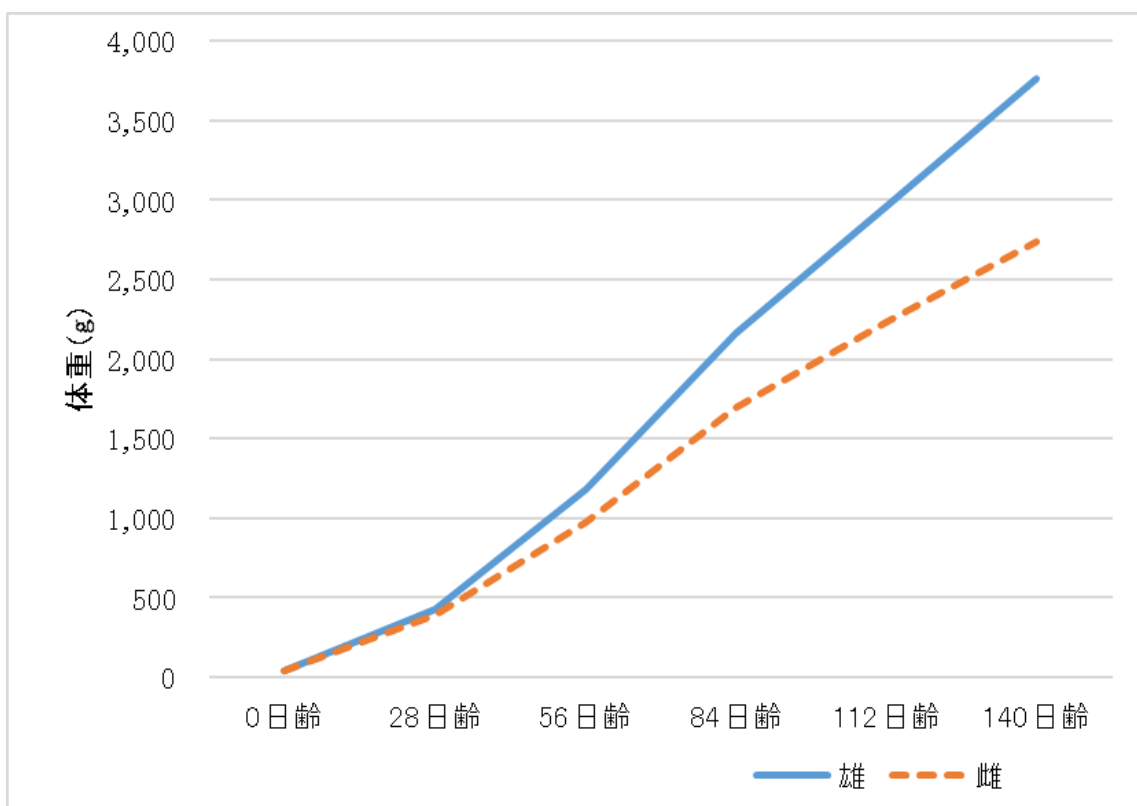
食鳥処理場への搬入時に消化管内に糞便が残留していると、運搬時や解体時に糞便により汚染される可能性があるため、出荷を予定している個体については、出荷日前日から絶食させる。

出荷用のかごに入れる際には、適正な羽数を入れ、熱により鶏が死なないように留意する。

(7) 参考（令和3年度肥育試験（当センター内の野外簡易鶏舎）より）

ア 日齢別の体重の推移（g）

	0日齢	28日齢	56日齢	84日齢	112日齢	140日齢
雄	39	425	1,184	2,162	2,968	3,768
雌	39	388	978	1,700	2,237	2,739



イ 140日齢出荷時の部位別重量（g）

	体重	と体重	むね	もも
雄	3,768	3,457	524	835
雌	2,739	2,520	412	568

## 6 異状鶏の発見

鶏の飼育にあたっては、飼養衛生管理基準（鶏その他家きん）を遵守した管理を行うとともに、異状鶏を発見した際は、管内の家畜保健衛生所へ連絡をお願いします。

### 県内家畜保健衛生所一覧

連絡先	管轄区域
中央家畜保健衛生所 〒 331-0821 住 所 さいたま市北区别所 107-1 T E L 048-663-3071 F A X 048-666-8731 E-mail m6333071@pref.saitama.lg.jp	さいたま市、川口市、鴻巣市 上尾市、草加市、蕨市、戸田市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、桶川市、北本市、伊奈町 春日部市、越谷市、久喜市 八潮市、蓮田市、宮代町、白岡町、三郷市、幸手市、吉川市、杉戸町、松伏町
川越家畜保健衛生所 〒 350-0837 住 所 川越市石田 152 T E L 049-225-4141 F A X 048-226-9653 E-mail r254141@pref.saitama.lg.jp	川越市、所沢市、飯能市、狭山市 入間市、富士見市、ふじみ野市 坂戸市、鶴ヶ島市、日高市 三芳町、毛呂山町、越生町 東松山市、滑川町、嵐山町 小川町、ときがわ町、川島町 吉見町、鳩山町
熊谷家畜保健衛生所 〒 360-0813 住 所 熊谷市円光 1-8-30 T E L 048-521-1274 F A X 048-526-1063 E-mail k211274@pref.saitama.lg.jp	秩父市、横瀬町、皆野町、長瀨町 小鹿野町、東秩父村 本庄市、美里町、神川町、上里町、熊谷市、深谷市、寄居町 行田市、加須市、羽生市